

1 実施概要

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から実施されています。

令和6年度は市内、小学生677名、中学生598名が参加し、4月18日に調査が実施されました。調査内容は、毎年実施されている国語、算数・数学と学習意欲や生活状況等について尋ねる児童生徒質問調査となっています。

本市においては、年間を通して、「京田辺市学力向上対策会議」を開催し、学力調査の分析結果を活用して、児童生徒の学力を一層向上させるために、教育委員会、各小中学校及び関係諸機関と連携を図りながら、各小中学校における教育指導の充実や学習状況の改善、教育施策の成果と課題を検証し、教育に関する継続的な検証改善サイクル(PDCAサイクル)を確立し、その改善に向けた取組を進めています。

2 学力調査の結果概要

【国語科の結果概要】

○小学校では、すべての内容・観点において、概ね国や府の平均正答率に近い結果となっています。しかし、思考力・判断力・表現力等の「話すこと・聞くこと」「書くこと」にやや課題が見られました。

○中学校では、すべての内容・観点において、概ね国や府の平均正答率に近い結果となっています。しかし、思考力・判断力・表現力等の「話すこと・聞くこと」や記述式の問題形式に課題が見られました。

【算数科・数学科の結果概要】

○小学校では、すべての領域・観点において、国や府の平均正答率を上回っていました。しかし、データを読み取り、それらを活用して課題を解決する問題は、やや課題がありました。

○中学校では、すべての領域・観点において、国や府の平均正答率をかなり上回っていました。

概ね国や府の平均正答率を上回っている内容が多く見られますが、国語科の思考力・判断力・表現力等の「話すこと・聞くこと」には、小・中学校とも課題が見られます。また、小・中学校とも、理由等を記述式で解答する問題の無回答率が高くなっている状況が見られました。

3 質問調査の結果概要

【生活習慣について】

○小学校は、「朝食を毎日食べている」「同じくらいの時刻に寝ている、起きている」の項目は、国や府平均を上回っており、基本的な生活習慣が身に付いている児童の割合は高い水準を維持しています。しかし、中学校においては、「同じくらいの時刻に寝ている、起きている」の割合が国や府平均より低くなっています。朝の過ごし方が一日の生活リズムを整える上で大切な役割を果たしますので、今後も規則正しい生活習慣の確立に向け、各家庭におかれましても生活リズムを整えるとともに、その習慣化にご協力をお願いいたします。

【学習習慣について】

○小・中学校ともに、概ね家庭学習(宿題・習い事を含む)をしっかりと行っており、家庭学習が十分に取組んでいる傾向にあります。しかしながら、1日の家庭学習時間が30分以下、または全くしない割合が多く、家庭学習に取り組む姿勢に二極化の傾向が見受けられます。学校の授業の予習・復習をしっかりとやり切ることはもちろんのこと、自らの学習課題の解決に向けた学習計画を立て、主体的に学習に取り組み、習慣化につなげていくことが大切になります。

【自分自身に関することについて】

○小・中学校ともに「将来の夢や目標を持っている」割合が高く、将来への目的と展望を持っていることがわかります。しかし、「友達関係に満足していますか」の割合は低く、コミュニケーション不足も感じられます。また、「自分にはよいところがある」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」という質問では、小学校の割合が国や府より高いのに対して、中学校は低くなっています。自己肯定感・自己有用感の高まりが今後必要であり、友人関係の構築をはじめ、人との関わりの中で自らの進路を主体的に切り拓く能力や態度を育成していくことが大切であると考えます。

【学習への関心について】

○「勉強は大切だと思う」「授業の内容はよく分かる」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」の項目では、小学校で高い水準にあり、学習への関心や学ぶことの意欲が高い傾向にあります。中学校になると、それが少し低くなる傾向にあります。一方で、小中学校ともに、「勉強が好きである」の項目については、肯定的に回答した児童生徒は6割程度となっており、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考、工夫することはできていますか」の項目も国や府平均を下回っており、自ら学ぶ姿勢に課題が感じられます。「児童生徒が主体的に学習に取り組むなど学習意欲の向上につながるような学習活動」が展開されるように、今後も授業改善に努めてまいります。

【ICT 利用と学習への関わりについて】

○小・中学校ともに、授業時間におけるタブレット端末等の ICT 機器の利活用や使用頻度は、国や府より非常に高い割合を維持しており、学校教育におけるタブレット端末の活用が「日常化」されていると言えます。しかし、授業時間以外での学習についての使用時間や頻度が少なく、家庭学習においても効果的な活用を検討していくことが課題として挙げられます。併せて、デジタルシティズンシップ教育や情報モラル教育を活かした教育活動を展開し、学びを深めるための ICT 機器の活用に取り組みながら、今後の授業改善にもつなげていきます。また、各家庭におかれましても、個人情報の取り扱い等について、お子様と十分に話し合っただけであれば幸いです。

4 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策

【国語科の重点的な方策】

- 小学校では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、まとめることができるよう指導してまいります。また、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるような学習活動を行い、主体的・対話的で深い学びによる授業改善に努めてまいります。
- 中学校では、話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるよう指導してまいります。また、目的に応じて必要な情報に着目して要約、記述して、レポート等に表現する力を一層高められるような授業改善の工夫を行ってまいります。

【算数科・数学科の重点的な方策】

- 小学校では、簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、抜け落ちや重なりがないように分類整理することに弱さが見られたため、図・式・グラフ・言葉を使って、筋道を立てて説明できる場を設定しながら、思考力・判断力・表現力等を高めるような主体的・対話的で深い学びによる授業改善に努めてまいります。
- 中学校では、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る問題に弱さが見られたので、既習内容の定着とともに、様々な資料やデータから必要な情報を取捨選択し、問題解決の過程や結論を考えたり、説明したりする学習活動を積み重ね、学びと日常生活がつながっていくような授業改善の工夫に努めてまいります。

【質問調査に係る重点的な方策】

- 学力の定着については、家庭学習とのつながりが重要です。予習・復習等、自らの課題解決のための積極的に学習に取り組む姿勢や自分で計画を立てた主体的な学習が確立できるよう、各小・中学校においても、引き続き学習習慣の定着に向けた取組を進めてまいります。各家庭におかれましても、ご理解・ご協力をお願いいたします。

5 最後に

本市教育委員会では、確かな学力の育成と個性や能力の伸長を図る多様な教育を行っています。発達段階や個に応じ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図りながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度等、学習意欲の向上や言語活動の充実を基盤とした学力の充実・向上を目指すとともに、将来への目的と展望をもって、自らの進路を主体的に切り拓く能力や態度の育成を目指しています。

本調査の結果だけで、学力等のすべてを表すことはできませんが、これを一つの指標として、児童生徒一人一人の学びや生活を充実させ、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むために、各小・中学校で有効に活用し、これからの時代を生きる児童生徒一人一人が輝く京田辺っ子の育成ができるよう、より一層の努力をしてまいります。保護者の皆様をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。